

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表日： 令和5年12月20日

事業所名： あかしろきいろ発達支援るーむ（放課後等デイサービス）

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	✓		法律で定められたスペースを確保しています。
	2	職員の配置数は適切であるか	✓		法律で定められた有資格者を、規定以上の人数配置しています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	✓		身体的な不自由を抱えた利用者はおらず、エレベーター等の設備はありませんが、利用者の発達特性に応じた環境を整えています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	✓		日々実施している職員ミーティングの中で、情報共有をしています。その中で、日々の方針の確認や振り返りを行っております。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	✓		保護者の皆様から頂いたご意見等は全て社内で共有しており、施設運営の参考にさせていただいています。支援に関しましては、利用者や保護者のニーズを把握しながら、その状況に応じた提案ができるよう努めております。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	✓		当法人のホームページに自己評価の結果を掲載しています。保護者にはメールにて掲載開始のご案内をしています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	✓		今年度より、都型放課後等デイサービス事業が開始されているため、実施要綱に基づいて、今年度、第三者評価を依頼しています。年度内に結果を公表できるように努めてまいります。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	✓		各種社内研修の実施に加えて、外部研修を受講する機会を設けており、職員の資質向上に努めております。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	✓		専門的な視点から十分なアセスメントを行い、将来の自立を見据え、利用者一人ひとりの課題に合わせた支援計画を作成しています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	✓		WISCやビネー等、発達検査の結果を基に、専門的な知見から傾向を把握し、支援に役立てています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	✓		支援目標に沿って適切な効果を得られるように、常勤職員全員で話し合いながら活動プログラムの立案を行っています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	✓		現状の課題や特性を把握し、必要と思われる支援を行えるように、活動プログラムを開発、組み合わせることで実施しています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	✓		平日の小集団では、特に社会性やコミュニケーションに焦点を当てて支援しています。それぞれの課題に合うように一人ひとり異なるアプローチで支援をしています。土曜日は個別支援枠を設けており、小集団の中で浮かび上がってきた個々の課題に対して、一人ひとりに合った重点的な支援をしています。今年は特に、春季・夏季など学校が長期休暇の間や休日のイベントにも力を入れ、余暇の提供を含めた4つの基本活動を組み合わせることで支援しています。その他にも、宿題に取り組むための学習支援を行うなど、利用者ごとに必要な支援を提供しています。
14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで放課後等デイサービス計画を作成しているか	✓		前述の通り、子どものその時の状況を鑑みて、小集団、個別など最適な支援を組み合わせることで提供できるよう、個別支援計画を作成しています。	

関係機関や保護者との連携	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	✓		当日の利用者や利用者同士の組み合わせから、重点を置く課題やメニュー、活動の進め方等を職員同士で話し合い、共有を行った上で支援にあたっています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	✓		サービス提供記録を作成すると同時に、支援の振り返り、共有を行っています。特記事項はいつでも参照できるように記録をつけており、次回以降の支援に役立てています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	✓		前述の通り、利用者の様子は毎回記録し、必要に応じて保護者と連絡を取り合っています。一人ひとりに合った支援ができるよう、職員間で話し合い、対応方法などを検討しています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	✓		ガイドライン及び都型放課後等デイサービスの基準に基づき、支援計画の見直しは年に1回以上実施し、モニタリングは年に4回実施しています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	✓		前述の通り、自立支援を軸に、4つの基本活動を組み合わせて支援を行っています。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	✓		事前に職員間で十分情報共有を行った上で、常勤職員(基本的には児童発達管理責任者)がサービス担当者会議に参画しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	✓		都型放課後等デイサービス事業で学校訪問の他、必要に応じた情報共有を行っています。緊急時にはいつでも連携が取れるように態勢を整えており、トラブルの発生時には専門的な観点からの助言や、直接支援を行う等して解決にあたっています。
	22	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	✓		必要に応じて情報共有を行っています。
	23	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	✓		対象者がいる場合は、必要に応じた情報共有を行っている他、移行先の事業所や利用者に適切なアフターフォローが行えるよう、適宜連絡を取り合っています。障害福祉サービス事業所等への見学を行い、移行が円滑に行えるようにしています。
	24	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	✓		必要に応じて関係機関と連絡を取り合い、いつでも連携が取れる関係性を築いています。研修等についても適宜参加しています。
	25	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか		✓	利用者の大半が通常学級に在籍しているため、放課後児童クラブや児童館との交流は行っておらず、保護者からのニーズもありません。
	26	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	✓		積極的に参加しています。
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	✓		日々の活動の様子は、サービス提供記録を通してできる限り伝えられるよう努めており、お迎え時などの短い時間でも情報を共有できるような心がけています。いつでも相談を受けられるように態勢を整えており、早急に対応が必要と判断される事項については、電話などで連絡を取り合っています。
	28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	✓		学齢等で対象者を分けながら、課題やニーズに応じた勉強会を開催する予定です。個別には相談やモニタリングの面談の際に適宜助言を行っています。
	29	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	✓		契約書と重要事項説明書に明記し、契約時には口頭でも丁寧に説明しています。
	30	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	✓		電話やメールでの相談には即時対応し、また必要に応じて面談を設定して、助言と支援を行っています。

保護者への説明責任等	31	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	✓		毎年、1回以上保護者会を開催しています。今年度も保護者会を実施する予定でいます。
	32	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	✓		苦情があれば迅速かつ適切な対応をとれるよう態勢を整えています。また、苦情を申し立てていただけるよう窓口も設置し、掲示物や説明書で案内しています。
	33	定期的にホームページやメール等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	✓		随時、メール配信やホームページを使って情報を発信しています。
	34	個人情報に十分注意しているか	✓		職員の共通理解の下、十分注意しながら個人情報の管理をしています。また、見学者やボランティア、研修受講者など外部からの人を迎える場合には、必ず注意事項に同意いただいてから参加していただいています。
	35	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	✓		保護者に対しては、手紙・メール・口頭などで複数回お知らせし、重要事項や情報の伝達漏れがないよう配慮しています。支援の場では、必要に応じて視覚情報と聴覚情報を組み合わせるなど、発達特性に配慮した伝達を行うようにしています。
	36	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	✓		変化に弱い子どもが多いので、利用者主体で落ち着いた活動ができるよう配慮しています。そのため、地域住民を招待する等の行事は実施しておりませんが、近隣の園への訪問や地域向けの相談会を実施しています。その他にも、買い物体験等で地域資源を活用した活動を行っています。
非常時等の対応	37	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	✓		厚生労働省のルールに則り、各種マニュアルを整備しています。保護者に対しては、重要事項説明書に記載して説明済みです。施設入り口にもマニュアルを設置しているので、いつでもご覧いただけます。
	38	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	✓		年に2度、避難訓練月間を設けています。在籍利用者全員が参加できるよう、1度の訓練につき月～金各曜日で計5日間の予定を組み、実施しています。今年度は地域の消防署の職員にご協力いただき、消火器訓練等を実施しています。
	39	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	✓		事業所の虐待防止マニュアルを整備し、マニュアルを用いた虐待防止研修を各年1回以上実施しています。また、新規職員に対しては入社後速やかに同様の研修を行っています。
	40	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	✓		身体拘束適正化委員会を設置し、適正化に努めています。身体拘束を行う場面についてはマニュアル内でも明確に定めており、職員間で共通認識を持っており、現在、利用者の中に身体拘束を行う必要があるケースは考えられません。
	41	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	✓		アレルギーをお持ちの方については、保護者と必要な情報を共有し、安全に過ごすための配慮を事前に取り決めて対応しています。
	42	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	✓		過去の事例を記録したヒヤリハット事例集を整備しています。道具や設備等については日々の消毒を行う際に安全点検も行っており、気になることがあればその都度毎日の会議で共有し、改善策等を話し合っています。事故を未然に防ぐためにも、全職員が当事者意識を持って業務にあたるよう指導しています。